



十二月 (大) 師走 氏宿

(十二月七日大雪の節より)
月命甲子七赤金星の月
暗剣殺西の方

旧 十月大
十一月小

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	廿宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	金	みづのとみ	四緑	映画の日、鉄の記念日、世界エイズデー、歳末助け合い運動、天一天上	旧十月大	十九	佛滅	やぶる	婁	ぢう日	6.31	16.28	19.44	12.57
2日	土	きのえうま	三碧	旧えびす講、旧誓文払い、不成就日		廿	大安	あやぶ	胃	神よし	6.32	16.28	20.45	18.05
3日	日	きのとひつじ	二黒	秩父夜祭、障害者週間		廿一	赤口	なる	昂	大みやう	6.33	16.28	21.45	18.37
4日	月	ひのえさる	一白	人権週間		廿二	先勝	おさん	畢	●	6.34	16.28	22.44	19.13
5日	火	ひのと	九紫	●下弦一四時四九分、納めの水天宮、一粒万倍日		廿三	友引	ひらく	觜	十し	6.35	16.28	23.41	19.08
6日	水	つちのえいぬ	八白	小田原秋葉権現火防祭、一粒万倍日		廿四	先負	とづ	参	くゑ日	6.36	16.28	24.44	18.57
7日	木	つちのとみ	七赤	大雪一八時三三分、一粒万倍日		廿五	佛滅	とづ	井	ぢう日	6.37	16.28	25.44	18.46
8日	金	かのえ	ね六白	こと納め、針供養、納めの薬師、成道会、一粒万倍日		廿六	大安	たつ	鬼		6.37	16.28	26.44	18.35
9日	土	かのとし	五黄	皇后誕生日、京都了徳寺大根焚き、漱石忌		廿七	赤口	のぞく	柳	五む日	6.38	16.28	27.44	18.24
10日	日	みづのえら	四緑	世界人権デー、納めの金毘羅、不成就日、大宮氷川神社大湯祭、三隣亡		廿八	先勝	みつ	星	大みやう	6.39	16.28	28.44	18.13
11日	月	みづのとう	三碧			廿九	友引	たいら	張	●	6.40	16.28	29.44	18.02
12日	火	きのえ	たつ二黒			卅	先負	さん	翼	大みやう	6.41	16.28	30.44	17.51
13日	水	きのとみ	一白	●朔八時三三分	旧十一月小	朔	大安	とる	軫	十し	6.41	16.28	31.44	17.40
14日	木	ひのえうま	九紫	東京高輪泉岳寺義士祭		二	赤口	やぶる	角	大みやう	6.42	16.29	32.44	17.29

一年の締めくくりにあつて、年間を通じて最も日の短い月である。この月の別名として「師走」の呼称が通例になつてゐるのは、やはり一般に師匠までも走り出す月、といふ人間味を伴つた語感のせいであらうか。

年の最後の月として、各地でいろいろな行事や祭りがあつて、だいたいが納めや供養である。

今年一年間の喜び、反省等、それらを思い返し、整理すること、来る年への指針となし期待を持ち、そして自戒するべきものがある。れば心に誓ふべきであらう。

「祭」歳暮とは元来年の暮のことであるが、日ごろ世話になつてゐる人や親戚などへの、一年間のお礼心として、贈り物や「お歳暮」といふならわしになつた。

正月始めは、この月の八日か十三日から、正月を迎える準備をし始めることを

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	廿宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	金	ひのとつじ	八白	年賀郵便特別扱い、東京世田谷ボロ市		三	先勝	あやぶ	亢	神よし	6.43	16.29	17.30	17.24
16日	土	つちのえさる	七赤			四	友引	なる	氏	母倉	6.43	16.29	18.33	17.13
17日	日	つちのとみ	六白	東京浅草観音歳の市、伊勢神宮月次祭、奈良春日大社若宮おん祭、不成就日		五	先負	おさん	房	百事吉	6.44	16.30	19.35	17.02
18日	月	かのえいぬ	五黄	納めの観音		六	佛滅	ひらく	心	大みやう	6.44	16.30	20.35	16.51
19日	火	かのとみ	四緑	一粒万倍日		七	大安	とづ	尾	大みやう	6.45	16.30	21.35	16.40
20日	水	みづのえ	三碧	●上弦三時三九分、一粒万倍日	八せん始め、一粒万倍日	八	赤口	たつ	箕	くゑ日	6.46	16.31	22.35	16.29
21日	木	みづのとう	二黒	納めの大師		九	先勝	のぞく	斗	天おん	6.46	16.31	23.35	16.18
22日	金	きのえ	一白	冬至一二時二七分、ゆず湯、三隣亡		十	友引	みつ	牛	きこ	6.47	16.32	24.35	16.07
23日	土	きのとみ	九紫			十一	先負	たいら	女	●	6.47	16.32	25.35	15.56
24日	日	ひのえ	たつ八白	クリスマス・イブ、納めの地蔵		十二	佛滅	さん	虚	大みやう	6.48	16.33	26.35	15.45
25日	月	ひのと	七赤	クリスマス、終い天神、蕪村忌、不成就日		十三	大安	とる	危	十し	6.48	16.33	27.35	15.34
26日	火	つちのえうま	六白			十四	赤口	やぶる	室	ちいみ	6.49	16.34	28.35	15.23
27日	水	つちのえいぬ	五黄	●望九時三三分		十五	先勝	あやぶ	壁	神よし	6.49	16.35	29.35	15.12
28日	木	かのえ	四緑	官庁御用納め、納めの不動、庚申		十六	友引	なる	奎	大みやう	6.49	16.35	30.35	15.01
29日	金	かのとみ	三碧			十七	先負	おさん	婁	神よし	6.50	16.36	31.35	14.50
30日	土	みづのえいぬ	二黒			十八	佛滅	ひらく	胃	月とく	6.50	16.37	32.35	14.39
31日	日	みづのとみ	一白	年越し、大はらい、除夜の鐘、男鹿なまはげ、出羽三山松例祭、八せん終り、一粒万倍日		十九	大安	とづ	昂	ぢう日	6.50	16.37	33.35	14.28

いう古い習慣で、すす払いから着手したものである。二十一日前後に二十四節気の一つ「冬至」がある。この日北半球では最も日が短く、この日を境に日脚が延びるので、地方によりそれぞれ行事を持つてゐる。「ゆず湯」に入る習慣は全国的に知られてゐる。

二十五日はキリストの降誕日、その前夜の「クリスマス・イブ」とともに、欧米では正月よりも盛大に祝う。わが国でもキリスト教とは関係なくツリーを飾つたり、プレゼントをし合つたりする家庭も多い。

新年を迎える正月の飾り物は、三十日までには用意を終えるが、二十九日は苦節り、三十日は一夜飾りといひ、どちらも年神様に失礼に当たるといふので、なるべく早めの準備を心掛けるべきである。

大晦日(おひそか)の夜は神棚にお供物をあげたり、年越しそば(みそかそば)を食べたり、神社や寺院に参詣したり、その土地土地によつて独特の習慣を持つてゐたりする。